

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490600119	事業の開始年月日	平成24年2月1日
		指定年月日	平成24年1月31日
法人名	株式会社 シリセス		
事業所名	小規模多機能シリセス		
所在地	(〒240-0064□) 神奈川県横浜市保土ケ谷区峰岡町 1 - 1 3 - 1 サンワールドビル 2 F		
サービス種別 定員等	☒ 小規模多機能型居宅介護	登録定員	25 名
		通い定員	15 名
	☐ 認知症対応型共同生活介護	宿泊定員	9 名
		定員 計	名
自己評価作成日	平成26年2月3日	評価結果 市町村受理日	平成26年3月28日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・各利用者の興味に応じたレクレーションを行っている。
・旬の食材を取入れた家庭的な食事を提供しながら健康管理を行っている。
・おやつも主として手作りで提供している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成26年2月24日	評価機関 評価決定日	平成25年3月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】 ◇利用者と家族の要望に柔軟に対応 ・利用者と家族の思いや希望を把握して、通い・泊まり・訪問を適切に組み合わせた介護計画を作成し、急な変更や家族の勤務時間に合わせた早朝の迎えや定時間後の送り、又、急な訪問等にも柔軟に対応している。 ◇申し送りノートを利用し職員間で情報を共有 ・職員は送迎時や日々の様子から利用者の情報を得、気づきを申し送りノートに記載して情報を共有し、日々の申し送りで検討して利用者個々に合ったサービスを提供している。 ◇地域の一員として地域に密着した交流 ・自治会に加入しており、利用者は職員と共に町内の夏祭りや防災訓練に参加している。餅つき大会では事前に打ち合わせ、利用者が食べ易いように餅を小さくしてもらったり、近くの商店街に買い物に出かけたりして、地域との交流を積極的に支援している。 【事業所が工夫している点】 ◇旬の食材で家庭的な食事の提供 ・献立から食材の購入、調理の全てを事業所内で行い、利用者から「快適情報調査表」でアンケートを取り、好みを把握して季節感のある家庭的な食事を提供している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	小規模多機能シリセス
ユニット名	ー

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらい
			3, 利用者の1/3くらい
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日頃から地域の方々との交流を図り、認知症に対する理解を深めて頂き、施設の円滑な運営に協力を得られるようスタッフ共々努めている。	・事業者理念と介護理念をフロアーの入り口と職員用トイレに掲示している。 ・職員は常に理念を念頭に、利用者が日常生活で家庭の延長としてリラックスできるようケアに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入り、夏祭りや防災訓練等の地域活動に積極的に参加している。	・自治会に加入しており、町内会の防災訓練や夏祭り、餅つき大会に利用者と共に参加している。 ・中学生の職業体験を受け入れたり、ダンス、手品、ギター、三味線などのボランティアを受け入れて、利用者と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々を施設に招き、利用者と談話の場を設けたり、中学生の職業体験等、ボランティアに来て頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で頂いた意見について、スタッフ会議の議題として取入れ、改善と向上を図っている。民生委員、町内会長、後見人等と連携しサービス向上を図っている。	・会議は、併設のグループホームと一緒に、家族代表、自治会長、民生委員や区の高齢支援課職員、地域包括支援センター職員が参加して、3か月ごとに開催している。 ・事業所の活動状況の報告後、参加者から要望、助言を得て運営に反映している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設や入居者の状況を常に担当者に報告をし、施設に来て頂いたり役所に伺ったりしている。常にかかれた施設として取り組んでいる。	・区の高齢支援課、障害福祉課の担当者とは、事業所の現状や利用者の受け入れ状況などの報告で訪問し、協力関係を築いている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ会議や外部研修で身体拘束防止を学び、身体拘束はないケアを実践している。人としての尊厳を傷つけないとの信念を持っている。	・「身体拘束ゼロ」を掲示し、職員はスタッフ会議や外部研修で身体拘束をしないケアを学び、チェックリストで確認して支援している。 ・フロアー入口は開錠しているが、玄関は防犯上から施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は絶対にあってはならないものとの信念に基づき、小さな出来事でも皆で注意をし、会議の場でも話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	単身の利用者様に対しては、行政と連携を取り成年後見制度の活用を支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、家族への説明などには理解・納得のいくまで行い、その後契約を結んでいる。家族の出来る事、ご本人の出来る事、施設の出来る事等を話し合っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見等を伺い、外部機関への連絡先を伝え、利用者がそれらを使用できる様にし管理者、スタッフに意見の言える環境を整えている。又、家族の方にも要望をお聞きし運営に反させている。常に開かれた施設となるよう努力している。	・家族の意見、要望は、送迎時や電話などで聴き取り、利用者には、日常生活の中から意見や要望をくみ取っている。 ・意見や要望は、スタッフ会議や「申し送り」で検討て、可能なものから運営に反映している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフの意見や提案をまとめ、スタッフ会議で報告・話し合い等検討し反映させている。スタッフが自由闊達に意見を述べられる様にしている。	・職員からの意見や提案は、スタッフ会議や日々の申し送りで聴き、会議で話し合って検討し運営に反映している。 ・職員の遅番、早番の勤務時間帯や利用者の入浴時間帯を見直し、改善した事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の面談を必要に応じ行い、職員が意見できる環境を作っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の資料等を掲示し、希望する職員が誰でも参加出来る様にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他施設への見学や研修を取入れ、良い所を持ち帰り、自施設での向上へと繋げている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の心配事等、十分に話を聞き受容し、コミュニケーションを取れる様に努力している。個人の秘密は守るようにして行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	問い合わせ時や見学・面談を通じ、家族の方の要望を十分に聞き、利用者・家族共に安心して生活出来る関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時に利用者・家族にとって、施設利用方法を綿密に説明し、最善のサービスを提案させて頂いている。特に急な宿泊、短期・長期の可能な対応・支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフは入居者との時間を共有する事により、多くの事を学び取り、尊厳を大切にし、尊敬の意を持ち共に支え合い、信頼し合える関係作りに努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には施設内での様子や過ごし方等を細かくお伝えしている。時には施設に足を運んで頂き、日中の施設内での過ごし方を見学して頂ける様お願いしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの生活で大切な方々との交流を途切れない様支援している。宿泊の多い方や、独居利用者には個別対応として外出支援や社会交流等を支援している。	・利用者の友人や以前のヘルパーの訪問には、お茶を出して関係の継続を支援している。 ・買い物や美容院、思い出の場所などに同行するなど、これまでの関係の維持に努めている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの方々の性格や行動、その日の体調等を把握し、利用者同士が会話や交流等を楽しめる様に座席位置等にも注意している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が入院等しても見舞いや面会を欠かさず行っている。サービス利用が終了した後も家族に電話を入れ、状況をお聞きしたり訪問をする事もある。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	思いや希望はそれぞれ異なる為、会話の中で注意深く把握し、本人が望む暮らし方が出来る様なケアサービスを心掛けている。	・利用者の思いや意向は、送迎時や日々の会話から把握し、個人別に記録して申し送り、職員間で共有している。 ・「快適情報調査表」にて、利用者の好きな食べ物や行きたいところ、お風呂の好みの温度などを把握して、ケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	傾聴を行い、本人の生活歴や昔の思い出等の把握に努め支援を行う時に反映させる様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人に出来る事は実行して頂き、自立を支援する様心掛けている。声かけを欠かさず、諦めず、毎回実行出来る様意識を持って努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に会話、声などに注意し耳を傾ける様努力し、希望・要求・不安等を汲み取り適切に対応した介護計画を作成している。	・計画担当者を中心に利用者や家族の意向を把握後、サービス担当者会議で話し合い、看護師や医者意見を入れて介護計画を作成している。 ・介護計画は、3か月ごとに見直し、変化があるときはその都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申送りノートを全員で把握し、個人記録も日々面密に記録し、情報を共有してケアに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族に要望を聞き、外出やお誕生日等はご本人の希望の食事場所を設定し、要望に沿ったお祝いをする。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ダンスや歌、手品、ギター等ボランティアの方に訪問をして頂いている。消防は訓練時に立会いを依頼している。地域の方々がお茶を飲みに来所される事もある。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月4回の訪問看護を受けている。個人のかかりつけ医とも家族を介して連携を取っている。	・かかりつけ医への受診を支援し、通院は家族に依頼しているが、状況に応じて職員が送迎し受診に立ち会っている。 ・月4回の訪問看護を受け、併設のグループホームの訪問内科医にインフルエンザの予防接種を受けたりしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤看護師に対し、利用者ひとりひとりの身体状況・情報等を伝え、適切な看護が受けられる様努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の医師又は相談員との密なる連携		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医、家族との密なる連携。家族としっかりと話し合いを持っている。	・重度化した場合や終末期のあり方については「重度化・看取りの指針」に基づき、契約時家族に説明して了解を得ているが、まだ看取りの実績はない。 ・スタッフ会議で、終末期のケアについての勉強会を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	フロア内に緊急時のマニュアルを掲示し、全職員がいつでも対応出来る様にしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員指導の下、地域の方、全職員の参加の訓練を年2回行っている。	・年2回消防署の立会いの下、近隣住民の参加を得て、日中と夜間を想定した避難訓練を行っている。 ・災害時に備えて、乾パン、水、ヘルメットや防寒用アルミシートを備蓄している。	・今後想定される災害に備えて、地域の消防団と防災協定を結ばれることが望まれます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心やプライバシーを損ねない様、また人生の先輩として敬い、言葉使いには留意し羞恥心を感じさせない様、気持ち良く過ごして頂ける様に努めている。	・職員は利用者の気持ちを大切に、時間がかかっても自分でできることにはなるべく手を出さず、見守るようにしている。 ・利用者と親しくなっても節度を保ち、馴れ合いにならないよう言葉かけや態度などに注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が思っている事や希望を表したり、又決める事が出来る様な環境作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴タイム時には、個々に新聞・雑誌を読まれたり、TV・トランプ等で過ごされ、レクタイムには暖かい日は散歩、室内レクタイムでは合唱・ゲーム・クイズ等で希望に添って行っている。必要に応じ、買物支援も行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お一人で、生活していらっしゃる方には、衣替えの季節には訪問時、一緒に下着・衣類選びし支援している。又、散髪希望される方には同行し、長期宿泊の方への衣類等買物支援も行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は楽しみの一つなどで、入居者の好みを聞いて栄養面を考え、季節感も取り入れている。禁食については、御本人・ご家族と話し合い対応。利用者の方も下膳等を手伝って下さる。職員も同じテーブルで同じ物を食べている。	・献立から食材の購入、調理の全てを事業所内で行い、利用者から「快適情報調査表」でアンケートを取り、好みを把握して、季節感のある家庭的な食事を提供している。 ・職員と利用者が同じテーブルで、談笑しながら食事を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日のメニュー内容・摂取量・水分量を記録し、一人ひとりの状態、習慣に応じた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯みがきを誘導し行う。必要な時には、入れ歯洗浄剤にてケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを記録し、トイレでの排尿排便を行っている。失敗や普段と違う様子が見られた時には、職員同士で声かけをし様子を観察する。オムツ使用を最大限減らし、最小限の介助でトイレで排泄・排便をして頂いている。	・チェック表で個々の排泄パターンを把握して見守り、さりげなく誘導し、全員がトイレで排泄している。 ・失敗した場合も自尊心を傷つけることのないような対応と支援を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には多くの野菜を取り入れ、便秘予防に努めている。薬をなるべく使わず、運動の働きかけを行いその都度個々に応じた取り組みをしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの希望や体調を考慮し、個別に応じた入浴支援をしている。足湯等も多く取入れている。	・入浴は1日おきを基本に、 1 人ひとりの生活習慣や希望、体調に応じて支援している。 ・入浴時間も特定せず柔軟に対応しており、中には1時間以上入浴を楽しむ方もいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣は大事にしているので、休息は状況を見て自由に行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬については、全職員が個々の処方薬を把握し、服薬の記録・処方箋に変化のある時には申し送りノートに書き報告、持参される利用者分は職員が確認し合う。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の能力を発揮して頂き、その行動への賛美と感識を表現している。（花瓶の花の花枯取り、手摺り拭き、カレンダー作り、散歩等）		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望を聞き、散歩・買物・外食等の支援している。	・天気の良い日は買い物、近所の散歩、外気浴など、戸外に出る機会を多く設けている。 ・弁当を持って花見やいちご狩りに行ったり、初詣には近くの神社に出かけている。 ・希望者と一緒に、近くの大型商業施設へ買い物に行くこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持されている方もいらっしゃる。必要に応じ買物をされる事もある為、同行・支援をする。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人への電話、手紙のやり取り等、自ら出来る様サポートする。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その時に応じた音楽を流し、季節の花や果物を飾り、遮光カーテンを使用し適温適度に注意し、居心地良く過ごせる様に工夫している。	・リビングには、花や果物を置いたテーブルやソファを配し、利用者が思い思いに寛いでいる。 ・室内は適温適湿に保たれ、手作りのカレンダーやお雛様などを飾って、季節感を採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士で会話をされたり、椅子からソファに移り読書をされたり、お1人でカードに興じている方もいらっしゃる為、その時々で居場所の工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	長期宿泊の方には、使い慣れた物を持って来て頂き、過ごしやすい環境にしている。	・居室にはベッド、タンス、エアコンなどを備え、利用者は着替えや使い慣れた日常生活品を持ち込み、自宅と同じように過ごしている。 ・長期の利用者は、テレビや携帯電話なども持ち込み、居室でも楽しんでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・浴室・廊下等には手すりを付け、浴室には滑らないシートを張り、危険のない自立した生活を送れる様心がけている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名

小規模多機能シリセス

作成日

平成25年3月17日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	火災や地震、水害等の災害時に対しての地域との防災協定を結んでいない。	今後想定される災害に備えて、地域の消防団と防災協定を結ぶこと。	災害時、スタッフの適切な判断と対応ができるように訓練の徹底。 消防署、町内消防団、町内と協定を結んでいただく。	2か月
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。